

吉富町の野鳥

平成14年度 事業
吉富町の野鳥
(野鳥パンフレット)

吉富町

〒871-8585

福岡県早良郡吉富町

大字広津226番地の1

TEL 0979(24)1122号

FAX 0979(24)3219

自然案内舎 鶴クラバード

〒810-0061

福岡県福岡市中央区西公園8-17

TEL 092(732)7042



吉富町

はじめに

吉富町は、山国川と佐井川の河口域において発達した平野に位置しています。

そのため、佐井川河口域に形成された広い河口や干潟や山国川下流の川原やヨシ原、河畔林^{カサノリ}および、二つの河川に挟まれた丘陵地に位置する天仲寺山や鈴熊山、その周りに農耕地やため池など、多種多様の自然環境を見ることができます。

これらの自然環境では、多くの野鳥がそれぞれに適した環境で暮らしていて、それはエサに関係していたり、季節に関係したり様々で、2001年度におこなった野鳥調査では、非常に多くの野鳥を確認することができました。

本町では、野鳥に興味を持つことで、自然環境の素晴らしさや大切さを感じていただければと考え、この冊子を発行することとなりましたので、町民の皆様においては大いに活用していただければ幸いです。



もくじ

はじめに	1
野鳥の生態	2
吉富町の野鳥の特徴	3
野鳥が生息する自然環境	4
野鳥の紹介	
山野の鳥	7
水辺の鳥	10
貴重な鳥	13
バードウォッチングのすすめ	15

野鳥の生態

世界では、約9,000種以上の鳥類が確認されており、その内、日本では、約542種類の野鳥が確認されています。しかし、一年中、これらの野鳥が見られるわけではありません。一年を通して、同じ地域で見ることのできる留鳥をはじめ、春に東南アジアなどからやってきて、夏に繁殖した後、秋には帰る夏鳥もいれば逆に、秋に越冬のため、日本にやって来て、一冬を過ごした後、春になると再び繁殖の為に、北国に帰る冬鳥もいます。

この他、南方に渡る途中に通過するだけの旅鳥、日本国内で短距離の移動をする漂鳥などがいます。

このように季節別に見ると、観察できる野鳥の種類は変化します。そのうえ、野鳥は、それぞれに適した環境を選んで生活しているので、同じ季節であっても環境によって、観察できる野鳥の種類は異なります。

吉富町では、一年間で120種類の野鳥が2001年度の鳥類調査によって確認されています。一町内で記録された種類数としては大変多く、これは、吉富町の自然が健全な状態で維持されていることを意味しています。ですから、このままの環境を後世に残していくことが、私たちの大切な役割なのではないでしょうか。



吉富町の野鳥の特徴

2001年に吉富町内で行われた鳥類調査では、一年間に120種類の野鳥が確認されました。これは日本国内での鳥類の確認種数から考えると、大変多いものです。これは、吉富町には山国川と佐井川の二つの川が流れており、その河口にできた豊かな干潟が存在し、野鳥のえさが豊富にあることに加え、町内には緑地が島のように点在し、様々な環境を有しているからです。

吉富町で確認された野鳥は、山野の鳥が59種類、水辺の鳥が61種確認されています。

では、吉富町には、どのような野鳥が見られるのでしょうか。季節ごとに、観察できる野鳥に違いがある事は、「野鳥の生態」のところでお話ししましたが、一年を通して見られる留鳥がスズメ・ムクドリなど48種。繁殖のために、渡来する夏鳥がツバメ・オオヨシキリなど16種。冬を越すために渡来する冬鳥がマガモ・ジョウビタキなど42種。春と秋に一時的に観察される旅鳥がキアシシギ・ノゴマなど14種でした。



野鳥が生息する自然環境紹介

●佐井川（別府、土屋区付近）

この地域は、河川の下流域にあたります。潮受け堤防の上流にあたり、潮の干満の影響は受けません。中洲が発達し、ヨシ原が広がり、両岸には一部河畔林が残されています。

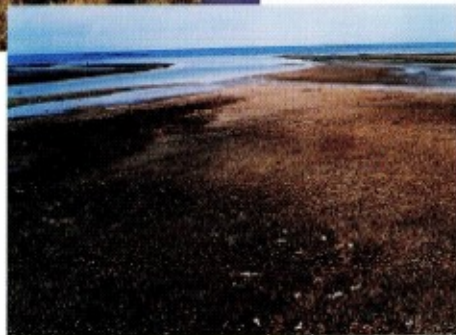
●佐井川河口干潟

ここは、河口干潟です。砂質の海岸があり、干潟は一部砂泥質ですが、ほとんどが砂礫で形成されています。堤防沿いにクリークとため池があり、一部ヨシ原が広がっています。



▼佐井川河口干潟

▲佐井川のヨシ原



●山国川（山国川総合グラウンド付近）

この地域は、山国川下流域にあたります。潮の干満の影響がある感潮域であり、河床のほとんどは砂礫で、堰の下流には中洲が発達して、両岸には一部ヨシ原があります。

●天仲寺山

ここは、町の中央に位置する丘陵地で、主に広葉樹で構成された林です。周辺は住宅密集地です。

●八幡古表神社

境内に続く参道にはクスノキやサクラの並木があり、境内周辺には、イチヨウやスギの大木が残されています。東側には山国川が流れています。



●鈴熊山

ここは、町の西部に位置する丘陵地で、主に広葉樹と竹林で構成されています。標高38.1mの山で、町内で最も高い場所です。周辺には、住宅地や田畑があり、南側にはため池があります。

野鳥が生息する自然環境

吉富町全図



野鳥の紹介-I

山野の鳥

ここで紹介する野鳥は、町内でよく見かけます。

キジバト 留鳥

全長33cm・ハト科

公園や神社の林などに多く、主に樹木の実、草の種子などを食べ、「デーデーボボ、デーデーボボ」と特徴のある声でさえずります。



コゲラ 留鳥

全長15cm・キツツキ科

市街地の林などで観察でき、日本に生息するキツツキの仲間が一番小さい。枯れ木をつついて中のカミキリ虫の幼虫などを食べます。



ヒバリ 留鳥

全長17cm・ヒバリ科

田畑や川原など広い草地で見られます。繁殖期には空中に舞い上がり、飛びながら長く美しい声でさえずります。



ツバメ 夏鳥

全長17cm・ツバメ科

主に昆虫を食べ、巣は泥を集めて、唾液と混ぜ合わせて作ります。民家の軒先などで普通に見ることができます。



ヒヨドリ 留鳥

全長28cm・ヒヨドリ科

植物の花や蜜、種子のほか、昆虫なども食べます。群れでいるところを観察する機会が多く、「ピーヨ、ピーヨ」と騒がしく鳴きます。



モズ 留鳥

全長20cm・モズ科

開けた環境で見られ、杭や木の枝先などに止まります。秋から冬にかけて「キョン、キョン、キリリリ」と鳴きます。



ジョウビタキ 冬鳥

全長14cm・ツグミ科

植栽地が多い公園や川原および農耕地で多く見かけます。雄は頭が灰白色で顔と翼は黒色、胸から腹はオレンジ色です。



ウグイス 留鳥

全長14~16cm・ウグイス科

平地から山地の林やササ藪などの茂みにひそんでいるため、姿を見る機会は少ないようです。「ホーホケキョ」ときれいな声でさえずります。



オオヨシキリ 夏鳥

全長18cm・ウグイス科

川原のアシ原などで見られます。「ギョギョシ、ギョギョシ」とにぎやかにさえずり、繁殖の最盛期には昼間も夜間も鳴き続けます。



シジュウカラ 留鳥

全長15cm・シジュウカラ科

公園、民家の庭、神社などで見かけ、巣箱でも繁殖します。頭が黒くて、胸にも縦にネクタイのように黒い太い線があります。



メジロ 留鳥

全長12cm・メジロ科

全身が黄緑色で目の周りが白いのでこの名前がついています。長く美しい声でさえずります。



ホオジロ 留鳥

全長16cm・ホオジロ科

草原、農耕地、川原などで見られます。比較的多く見かけ、春から初夏にかけて美しい声でさえずります。



カワラヒワ 留鳥

全長15cm・アトリ科

農耕地、川原などで見られ、秋から冬にかけて、群れになり地上で草の実などを食べます。全身が緑色で、翼に黄色の斑点があります。



シメ 冬鳥

全長19cm・アトリ科

平地から山地の林、樹木が多い公園などで見られます。大きなくちばしで木や草の実を食べ、全身が丸くてとてもかわいい鳥です。



野鳥の紹介-II

水辺の鳥

カイツブリ 留鳥

全長26cm・カイツブリ科

池、河川などで見られます。「ケレケレケレ」と大きな声で鳴き、池などの水面に水草などで浮巣を作り、ヒナを育てます。

ダイサギ 留鳥

全長90cm・サギ科

河川、湖沼、池、水田、干潟で見ることができます。水辺をゆっくりと歩いて魚を探します。「ガァァ」としわがれた声で鳴きます。

ゴイサギ 留鳥

全長57cm・サギ科

海岸、湖沼、池、河川で見ることができます。夕方から早朝にかけて水辺で魚を捕らえ、昼間は木陰などで休んでいます。

コサギ 留鳥

全長61cm・サギ科

池、湖沼、水田、河川、海岸、干潟で見ることができます。水辺をせわしなく歩いて、餌となる魚やカエルを捕らえて食べます。



アオサギ 留鳥

全長93cm・サギ科

池、湖沼、水田、河川、海岸、干潟で見ることができます。全身が灰色の大きなサギで、日本で最も大きなサギです。

マガモ 冬鳥

全長59cm・カモ科

冬鳥で普通に見られるカモです。湖沼、池、河川、海岸、干潟で見ることができます。「ゲゲゲゲ」と大きな声で鳴きます。

ヒドリガモ 冬鳥

全長49cm・カモ科

冬鳥で普通に見られるカモです。湖沼、池、河川、海岸、干潟で見ることができます。主に海藻を食べ、「ピュー」とかわいい声で鳴きます。

ハシビロガモ 冬鳥

全長50cm・カモ科

冬鳥で普通に見られ、湖沼、池、河川、海岸、干潟で見ることができます。口ばしがスプーンのような形をしているのが特徴的です。

ユリカモメ 冬鳥

全長40cm・カモメ科

冬鳥で普通に見られます。湖沼、池、河川、干潟で見ることができ、「ギィギィ」と鳴きます。いちばん目にすることが多いカモメです。



セグロカモメ **冬鳥**

全長61cm・カモメ科

冬鳥で普通に見られる大型のカモメです。河川、干潟で見ることが出来ます。魚を主に食べ、水面に浮いた魚や死んだ魚も食べます。



ハマシギ **冬鳥**

全長21cm・シギ科

冬鳥で普通に見られるシギの仲間です。口ばしと足が黒くて長めで、口ばしは下に湾曲しています。主に貝やゴカイなどを食べます。



イソシギ **留鳥**

全長20cm・シギ科

湖沼、水田、池、河川、干潟などで見ることが出来ます。一年中同じ場所で見られるシギは、このイソシギだけです。



カワセミ **留鳥**

全長17cm・カワセミ科

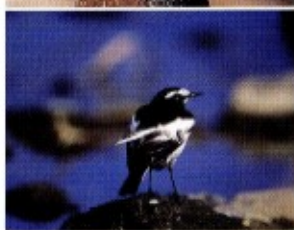
水中にダイビングして魚を捕らえます。頭と翼は緑色、背中は光沢がある青色。腹はオレンジという大変きれいな色をしています。



セグロセキレイ **留鳥**

全長21cm・セキレイ科

平地から山地の河川中流域、川側の農耕地などで見ることが出来ます。「ジィジィ」と漏った声で鳴き、尾羽を上下に振りながら歩きます。



貴重な野鳥

今日までの人間を中心とした開発などによって、各地の野鳥の生息地が失われてきました。そのため、多くの野鳥が数を減らし、中には絶滅の危機にさらされている種があります。環境省が、絶滅の恐れがある種として89種を選定し、福岡県でも、県内で減少している種として58種を選定しています。町内で観察された貴重な野鳥を紹介します。

★ミサゴ 全長54cm~64cm/タカ科

主に海岸、河川、湖沼などに生息しています。水面の上空で、停空飛行をしたのち、脚から飛び込み生きた魚を捕まえます。佐井川河口と山国川河口で見ることが出来ます。

★ハチクマ 全長57cm~61cm/タカ科

夏鳥として、平地から山地にかけての樹林で繁殖し、昆虫、カエル、ヘビなどを捕食し、特にクロスズメバチの蛹や成虫を好みます。群れて、大規模な湿りをおこない、吉富町の上空でも観察されています。

★オオタカ 全長50cm~58.5cm/タカ科

平地から山地の林、河川、農耕地などに生息し、主に鳥類を捕食します。主に冬鳥として渡来します。吉富町では、冬季に観察例があります。

★ハイタカ 全長30cm～32.5cm/タカ科

主に冬鳥として平地から山地の林、河川、農耕地などで、小型の鳥類を捕食します。ハトほどの大きさで、オオタカに姿や習性はよく似ています。吉富町では、冬季に観察例があります。

★ハヤブサ 全長38cm～51cm/ハヤブサ科

平地から河川、海岸、湖沼、農耕地などで、主に鳥類を捕食します。見晴らしが良い場所に止まり、獲物を空中で捕らえます。本町に留まっていると思われる。

★ハウロクシギ 全長53cm～66cm/シギ科

海岸の砂浜、干潟、河口、水田などに旅鳥として渡来し、主にカニやゴカイなどを捕食します。佐井川で春に観察されました。

★ズグロカモメ 全長29cm～32cm/カモメ科

主に九州北部の干潟に冬鳥として渡来します。干潟上空を飛び回り、カニを見つけると着地して捕らえます。佐井川河口の干潟で冬に観察されました。

★コアジサシ 全長22～28cm/カモメ科

夏鳥として、河川や干潟などに渡来して、海岸の砂浜、川原の磯地などで繁殖します。水面上空で、停空飛行した後、ダイビングして小魚を捕らえます。春に、山国川と佐井川河口干潟で観察されました。

バードウォッチングのすすめ

バードウォッチングを始めたいが、「どこに行けば鳥を見ることが出来るのか」など、色々な疑問があると思います。ここでは、バードウォッチングを楽しくおこなうための方法を説明します。

◆基本の鳥を覚えよう

バードウォッチングは、鳥の名前を覚えると、更に身近に感じ楽しむも増します。つぎの10種類の鳥は基本種で、大きさの順に並べると、ハシブトガラス、キジバト、ヒヨドリ、ツグミ、ムクドリ、ツバメ、ホオジロ、スズメ、ウグイス、シジュウガラです。

◆どこでバードウォッチング

野鳥は、季節や環境によって観察できる種類が異なります。じっくりと観察したいのであれば、冬の水辺でカモを観察するのが良いでしょう。カモは、あまり動かないのでじっくりと腰を据えて観察する事ができます。でも、わざわざ遠くに行かなくても、自宅の庭や近くの公園などでもバードウォッチングは楽しめます。



◆野鳥の探し方

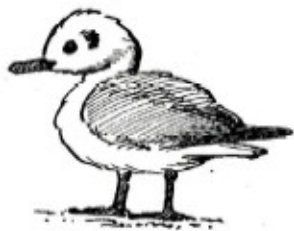
バードウォッチングを始めて最初にぶつかる壁が、「野鳥が見つからない」という悩みです。野鳥は、種類によってだいたい生息環境が決まっています。木を一本見ても、上の方が好きな種類がいたり、真ん中が好きな種類がいたり、はたまた藪の中が好きな種類がいたり様々です。

◆フィールドノートの作成

野鳥を楽しむ時にフィールドノートを活用することをおすすめします。観察中に名前がわからない野鳥と出会ったときなどに、その鳥の特徴や形などを書き込んでおくと、後で調べるときに大変便利です。フィールドノートの書き方には、決まりなどはありませんから疑問に思ったことや、その場所の環境など何でも記録しましょう。

◆用具の選び方

用具は最初から多く集めず、倍率7～9倍の双眼鏡と簡単な図鑑があれば十分でしょう。



●写真提供者/吉田博展(吉富町在住)

●参考文献

吉富町・(有)クラバード/2002 吉富町の野鳥

日本生態系保護協会/1994 ビオトープ・ネットワーク 都市・農村・自然の新秩序

福岡県環境部自然環境課/2001 福岡県の稀少野生生物

(財)自然環境センター/2002 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物

(財)日本野鳥の会/1993 今日からはじめるバードウォッチング

叶内拓哉他/1998 日本の野鳥 山と深谷社

五百沢日丸他/2000 日本の鳥550山野の鳥 文一総合出版

榎原政志他/2000 日本の鳥550水辺の鳥 文一総合出版